

# 質問紙法の信頼性に関する研究

## ～回答者とのラポールおよびワーディングの効果～

マスコミュニケーションゼミナール 1313057 藤谷和史

### 1. 研究動機・研究目的

これまで述べてきたように、質問紙法は心理学研究において最も広く用いられている方法であり、行政による社会調査、企業のマーケティング調査から卒業論文にまで広く用いられている。しかし、質問紙調査は被調査者の虚偽回答や調査票に用いられる項目の質問の仕方(ワーディング)といった質問紙自体の問題の他、回答者のサンプリングの偏りが得られる結果に影響を及ぼす。特に卒論などのように小規模集団で回答者が選択される場合、調査者と回答者とのラポール、つまり親和的關係が回答に影響すると考えられる。その影響を明らかにするために本研究を行う。そこで本研究では、「すべての」という言葉が質問の頭につかなかった場合に比較的上記のどちらの意味として捉えられるのか、親和的關係が回収率に影響を及ぼすのかを検討することが目的の1つである。

### 2. 研究方法

Google drive を用いたアンケート調査を実施した。質問は28問からなり、28問の内訳は、ワーディングの検証のために用意した質問の冒頭に「すべての」という言葉がついた質問が5問(以下、全称命題)、ついていない質問が5問(以下、命題)、全称命題および、命題を全称化したものの対偶となる質問が10問(以下、対偶)、ライスケールが2問、質問の違和感を減らすために加えた検証と無関係の質問が6問となっている。

質問群は2パターン用意し、質問の内容はほとんど変えず、Aパターンで全称命題であった5問をBパターンでは命題にした。また、Aパターンで命題であった5問をBパターンでは全称命題とした。以上の方法により、質問紙調査における調査する者と調査に協力する者との関係性が回答に影響するかと、ワーディングにより回答に差が出るかを検証した。ラポールの影響については、ラポールが築かれている集団として筆者が所属しているA部の32名(以下、高ラポール群)とそれ以外のB部の26名(以下、低ラポール群)を対象にネット調査を行った。Googleドライブを使用したネット調査は、質問のQRコードを紙に印刷して配るといった方法で行った。なお、性差の要因を排除するため、今回は男子のみを調査の対象とした。

### 3. 主な結果と考察

今回高ラポール群と低ラポール群合わせて 58 名に対して調査を行った結果、回収率は 58 名中 37 名で 63.8% (小数点第 2 位を四捨五入) となった。部活別にみた場合には、高ラポール群の回収率は 32 名中 23 名で 71.9% (小数点第 2 位を四捨五入) となり、筆者の所属していない低ラポール群の回収率は 26 名中 14 名で 53.8% (小数点第 2 位を四捨五入) となった。ワーディングによる回答の差は一部の質問を除きすべての質問で観られた。

このワーディングによる回答の差がなぜ出てしまったかの推論を提示するために、今回ネット調査の対象となっていた回答者を 2 人集め、座談会を行った。命題と全称命題の回答の差について話し合った結果、命題と全称命題の差は、命題の質問の解釈によるものだと考えられる。

次に、全称命題とその対偶の回答の差について話し合った結果、命題と全称命題に比べると、対偶と全称命題の回答の差はほとんどなかったが、多少見られた。また、全称命題は「すべてのスポ健生は～である。」というように質問の内容に当てはまらない人を間接的に否定するのに比べて、対偶命題は「～でない者はスポ健生ではない。」というようにあてはまらない者を直接的に否定しているために言い方が強くなってしまったため、「スポ健生はみんな～だと思うけれど、～でないからと言ってスポ健生ではないとまでは言い過ぎである」ととらえる人がいたと考えられる。一方で、大きな差が出てしまった内容に関しては、前の比較と同じように多くのスポ健生がスポ健生の特徴として捉えていることに関しては回答が割れたと考えられる。

### 4. 結論

調査を行った結果、統計学的には回答者とのラポールが回答に影響を与えることはなかった。ワーディングによる回答の差については、推論ではあるが、回答者によって解釈の仕方がなることや、回答者のその質問に対する考えの強弱により回答に差が出ると考えられる。また、対偶の文章の構造が回答に差異が出る原因である。という結論に至った。

### 5. 卒業論文の執筆を終えて

割合的には差がみられたが、統計的にも回答の差が出ているという結果を出すにはもっと多数のサンプルが必要であると考えられる。また、回収率を高めるためには依頼書を出したり、督促を行ったり、回答者には報酬を用意するなどする必要があると考えられる。